



東海用発見 2012



桜井風は名古屋古流風を元に、色を増やし、形態を変化させながら独特の意匠になった。保存会は福助、天神、扇、チョウ、アブなど伝統的な意匠のほか、オリジナル作品を作る。桜井公

保存会員の皆さんに、お気に入りの風を持ち寄っていただきたい。秋空の下、風の鮮やかな色彩が目にまぶしかった! 川津陽一撮影

保存会は、桜井風の最後の作り手だった岩瀬良吉氏(1925~2003)に師事した藤江実さん(79)らを中心にして2003年1月に結成された。竹を切り、ひご作りから始める。

全工程をこなす作り手は十数人だが、揚げるだけの会員も含めると180人。毎月2回、日曜に地元の桜井公民館で作り方を教え、平日には市内外の小学校にも教えにいく。完成まで10時間の出張授業だ。

石垣島へ、隱岐の島へ。会員は全国の風揚げ大会に自慢の風を持って遠征する。笑顔満載、老人パワー健在だ。

笑顔満載、自慢の風と

(愛知県安城市)
「風を揚げたいから保存会に入った。作り方も覚えたし、楽しいよ」

愛知県安城市で活動する桜井風保存会の石橋孝子さん(64)が子どもみたいな表情で話すのをみて、思わず「わかります」と共感した。

昔、私も車のトランクに洋風を積んでいた。大空の青が深くなると、無性に風を揚げたくなるときがある。風揚げは、ひとの根源的な夢につながっているようだ。

桜井風は同市桜井町の一帯で江戸時代中期から作られていた。農閑期の副業であり、武家の内職になつたらしい。近在の社寺の縁日や熱田神宮の初えびすで売られた。

保存会は、桜井風の最後の作り手だった岩瀬良吉氏(1925~2003)に師事した藤江実さん(79)らを中心にして2003年1月に結成された。竹を切り、ひご作りから始める。

全工程をこなす作り手は十数人だが、揚げるだけの会員も含めると180人。毎月2回、日曜に地元の桜井公民館で作り方を教え、平日には市内外の小学校にも教えにいく。完成まで10時間の出張授業だ。

石垣島へ、隠岐の島へ。会員は全国の風揚げ大会に自慢の風を持って遠征する。笑顔満載、老人パワー健在だ。

(六郷孝也)

民館での風作り講習会には、だれでも参加できる。風は通信販売もしていで、最も安い福助は3千円。問い合わせは会員の都築秀行さん(電話090-23340・4612)。